

令和7年度 陽西中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

(1) 基本目標

豊かな心と健やかな身体をもち、自ら考え行動するなど、意欲をもって自主的・創造的に生きることができ、日本はもとより国際社会に貢献できる人間を育成する。

(2) 具体目標（目指す生徒像）

- ・敬愛の心があつく心情豊かな生徒
- ・よく考え主体的に行動できる生徒
- ・体力気力の充実した健康な生徒

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

グローバル社会の進展，情報社会・科学技術の進展，持続可能な社会づくりへの対応，感染症の影響や自然災害の激甚化など，これからの社会は予測を超えた変化が起こることが想定されている。このような中で学校の使命は，生徒に確かな学力をつけ，豊かな心を育むとともに，激動の社会を生き抜くために必要な「生きる力」を確実に身に付けさせることである。

このために，総括的な目標として「夢や希望に向かって挑戦するたくましい生徒の育成」を掲げ，人権尊重の精神を基盤に全教育活動を通じて，「認めてほめて伸ばす指導」の充実を図りながら，生徒の「自己肯定感」を高め，自信と誇りをもって生き生きと学校生活を送る生徒を育成したい。

教職員は，「教職員の生き方改革」と「学校における働き方改革」を推進し，業務の効率化や労働時間の適正化を図るとともに，同僚性を高め，組織力と専門性の向上を目指す。

<目指す学校像>

- ・笑顔と潤いがある学校
- ・感動と活力にあふれる学校
- ・地域とともに歩む学校
- ・みんなでつくる笑顔あふれる学校

<目指す教職員像>

- ・人間性豊かで信頼される教職員
- ・使命感と情熱をもつ教職員
- ・幅広い教養と専門性を身につけた教職員
- ・同僚性を高めた専門家集団

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

重点目標 「夢や希望に向かって挑戦するたくましい生徒の育成」

(1) 確かな学力の育成

- ・全ての生徒が，基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得することができるよう，宇都宮モデルによる授業を展開し，活動のねらいを明確にしながら，「対話」を通じた主体的で深い学びを促進する。
- ・生徒の実態を踏まえた指導方法や指導体制の工夫・改善を図るとともに，家庭学習を充実させ，生徒一人一人の確かな学力の育成に努める。

(2) 潤いと活力がある学校づくり

- ・命や思いやり，感謝の心などに指導の重点をおいた「心の教育」を全教育活動において実践し，充実する。
- ・どの生徒にも温かい雰囲気を受け入れる思いやりのある学級づくりに努めるとともに，個に応じた多様な居場所を確保する。
- ・時間を意識した学校生活に重点を置きながら，基本的な生活習慣を身に付けさせる。
- ・道徳科，読書活動，あいさつ運動，交流活動等の充実を図り，やさしさと思いやりにあふれた心の教育を推進する。
- ・学校行事，部活動，体験活動等を通して社会性を養い，生徒会活動，学級会活動，清掃活動等を通して自治意識を高めるとともに，挑戦する心，あきらめない心，困難を乗り越えようとする強い意志などのたくましさを涵養する。

(3) 地域とともに歩む学校づくり

- ・学校情報の積極的な発信と地域教育資源の活用，地域学校園・小中一貫教育の推進と地域協議会等との連携，生徒の地域貢献活動の実践等による，地域とともにある学校づくりを推進する。
- ・文教地区の強みを生かし，地域に根ざした豊かな食農体験活動や近隣高校との連携を図ったキャリア教育を推進する。
- ・保護者や関係機関等との連携を図り，生徒の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導やインクルーシブ教育の充実に向けた特別支援教育の推進に努める。
- ・地域指導者・地域施設・他校等との連携を図りながら持続可能な部活動を見据えた地域移行を進める。

(4) 教職員の「生き方・働き方改革」の推進

- ・「学校における働き方改革」を推進し，業務の効率化や労働時間の適正化を図る。
- ・教職員の使命を自覚し，同僚性を高めながら，組織力と専門性の向上を目指す。
- ・定年延長制の導入を機に，仕事と私生活を見つめ直す「生き方改革」を進め，各教職員がウェルビーイング（すべてが満たされ，継続性のある幸福）を追求する。

[陽西地域学校園教育ビジョン]

『自己の「よさ」を生かすとともに他者を尊重し，粘り強く頑張る子どもの育成』
～協働的な学びを通して，自己肯定感を育む教育活動の推進～

4 教育課程編成の方針

- ・「学習指導要領」の趣旨に則り，「個別の知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」のバランスの取れた育成を目指す。
- ・学校経営方針のもと，教育目標の実現を目指すとともに，「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」，「令和7年度指導の重点」等を踏まえながら，教科横断的な視点で各教科等の関連付けを図った教育課程を編成する。
- ・学校課題や重点目標，特色ある学校づくりを具現化した教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

- 教職員の学校経営への参画意識の高揚と組織的な企画・運営を推進する。
- ・教育目標実現のための学年・学級目標の設定，具体策の明確化と実践に努める。
- ・今年度の重点目標を「命や思いやり，感謝の心などに指導の重点をおいた「心の教育」を全教育活動において実践し，充実する。」として，教育活動を展開する。
- 必要な学習機会や体験活動等を精査し，教育活動を充実する。
- ・ICTを活用した業務改善を推進し，事務業務の負担軽減を図り，教職員の勤務意欲を向上させる。

(2) 学習指導

- 確かな学力の育成を目指して，学習指導要領に基づき，教育活動のねらいを明確にし，わかる授業・できる授業の実践と生徒一人一人の良さを生かす活動の充実を努める。
- ・習熟度別学習，ティーム・ティーチング，重点的な指導や繰り返し指導，一人一人の生徒の理解の程度や興味・関心に応じた指導など，指導方法・評価方法を工夫する。
- ・帯時間や放課後等を活用して，基礎的・基本的な知識・技能の定着に向けた補充学習等を効果的に行い授業中に身に付けた知識・技能のより確実な定着を図る。
- ICTを効果的に活用し，個別最適な学びを実現するGIGAスクール構想を推進する。

(3) 児童生徒指導

- 時間を意識した学校生活に重点を置きながら，基本的な生活習慣を身に付けさせる。
- ・教職員は生徒との信頼関係を構築し，魅力にあふれ安心して生活できる学校づくりを推進する。
- ・生徒主体のいじめ根絶集会や道徳家の授業等において，生徒自らがいじめについて考え，意見を交わしいじめと向き合うことにより，生命や人権を尊重し，差別やいじめを許さない態度を身に付けさせるとともに，規範意識の醸成を図る。
- ・日々のコミュニケーションに努めることはもとより，年5回の「家庭でのいじめ悩みアンケート」や年2回の教育相談と三者懇談，宮っ子ダイアリーの活用などを通して，問題行動の未然防止やいじめゼロを目指す。

- 心の教育の充実により、自信や自己有用感、たくましさ、規範意識、思いやりなど、豊かな心を育む。
- ・定期的にケース会議（教育相談、生徒指導、特別支援）を開き担任をサポートするチーム支援を行う。
- ・SNSに起因するいじめやトラブルの未然防止に努める。
- ・何事においても早期発見・早期対応に心がけ、早期解決を図る。

(4) 健康（体力・保健・食育・安全）

- ・保健体育科の授業を中心に、様々な運動を経験し、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を図る。
- 食に関する正しい知識や正しい食習慣を身に付けられるよう、組織的に食に関する指導に取り組む。
- ・避難訓練や交通安全教室を通して、安全を確保するための判断力や実践力を育成する。

(5) 学校における働き方改革

- ・「宇都宮市学校における働き方改革アクションプラン～第2次アクションプラン(令和6年3月見直し)～」に基づいた取組を進める。
- ・ミライムを活用した教職員の時間管理を定着させるとともに、定期的に学校・学年・個人のリフレッシュデーを実施して学校全体の超過勤務を縮減し、一人一人が健康で生き生きとやりがいをもって勤務できる環境づくりを推進する。
- ・年度途中における校務分掌の見直しを行い、校内の業務の適正化（明確化、効率化、簡略化等）を図る。
- ・諸表簿の電子化の運用を積極的に進めるなどICTを活用した業務改善を推進し、事務業務の負担軽減を図る。
- ・学校独自に自動採点ソフトを導入し、採点事務の時間を削減するとともに、学力分析による学力向上を図る。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価						
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A 1 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケート 教職員の肯定的回答 生徒の肯定的回答 ともに85%以上</p>	<p>① ○「主体的・対話的な深い学び」を意識した授業改善に努め、「学び合う」ことで学習が深められるような授業の展開を工夫し、実践する。</p> <p>② 定期テスト前の質問学習やテスト、予想問題の作成、学習サポート、教科部会の効果的实施等学校体制として取り組む。</p> <p>③ 家庭との連携を図りながら、自主学習ノートや補充プリントの指導を通して、家庭学習の習慣化を図る。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>生徒</td> <td>89.2</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>75.6</td> </tr> <tr> <td>保護者 地域住民</td> <td>82</td> </tr> </table> <p>・多くの生徒は89.2%と肯定的に捉えているが、教職員は指標を大幅に下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の習慣化を図るために自主学習ノートの指導を行う。また、各教科で自主学習用の課題を用意するなど自ら学ぼうとする生徒の育成に努める。 ・様々な学習形態を工夫し、「対話」を取り入れた協働的な学びを活かした授業づくりに努める。 ・校内研修等で、生徒の学習意欲を引き出せるような指導法の実践例やICTの有効な活用法などについて共通理解を図る。 ・自主学習の取り組み方について、授業の中で説明し、実践させる機会を設ける。また、デジタルドリルを活用するなど生徒が自主学習の有用性を実感し、主体的に学習に取り組めるよう支援する。 	生徒	89.2	教職員	75.6	保護者 地域住民	82
生徒	89.2									
教職員	75.6									
保護者 地域住民	82									

A2 生徒は、思いやりの心
をもっている。
【数値指標】
全体アンケート
教職員の肯定的回答
85%以上

- ① 研修会・ローテーション道徳を計画的に行い、講話等で得た内容を生かした道徳授業を実践する。
- ② 授業の中で、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を身につけ、よりよい行動に結びつくよう支援する。
- ③ 生徒が自分の良さを認識し、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し思いやりをもった言動ができるようにする。

【達成状況】

対象者	達成率 (%)
生徒	94.2
教職員	63.4
保護者	91
地域住民	100.0

・生徒、保護者、地域住民は指標を大幅に上回ったが、教職員は 63.4%と大幅に下回った。

【次年度の方針】

- ・道徳の授業や日々の友達との生活での経験を通して、「命」や「思いやり」、「感謝の心」などに重点を置いた心の教育を全教育活動において実践する。深く考えさせるよう促し、生徒の優しい心を育むとともに、他者を尊重する気持ちや自己肯定感の醸成に努める。
- ・学校のあらゆる教育活動を通して、思いやりの心について学んだことが日常生活で実践につながるよう、声かけや温かい雰囲気づくりを学校全体で取り組んでいく。

A3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。
【数値指標】
全体アンケート
生徒の肯定的回答
教職員の肯定的回答
ともに 80%以上

- ① 学年・学級・生徒会専門委員会・部活動ごとに目標を決めたり、学校行事のスローガンを設定したりすることにより、目標を明確にするとともに、協力して目標に向かって努力する態度を育成する。
- ② 各学級・専門委員会・部活動において、振り返りを行わせ、生徒自らの取組を今後に生かす指導を充実させる。

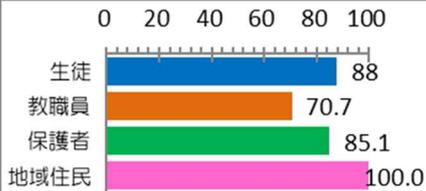
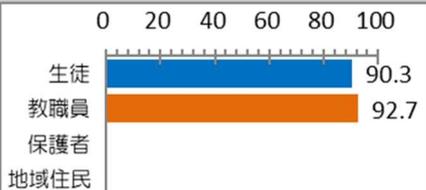
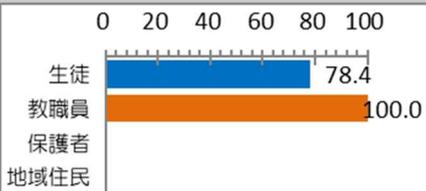
【達成状況】

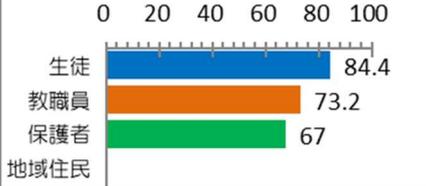
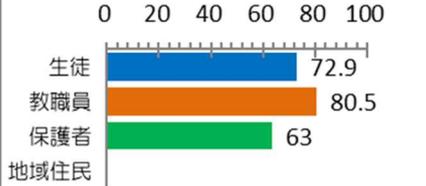
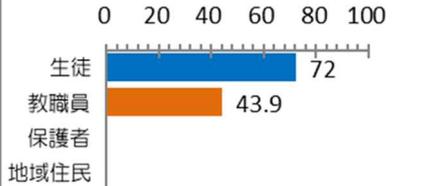
対象者	達成率 (%)
生徒	85
教職員	78.0
保護者	75
地域住民	

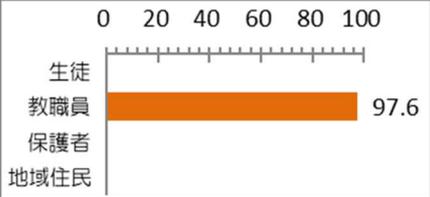
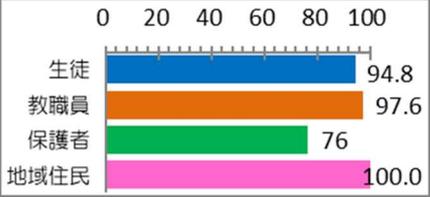
・生徒は 85%と指標を上回ったが、教職員、保護者は若干下回った。

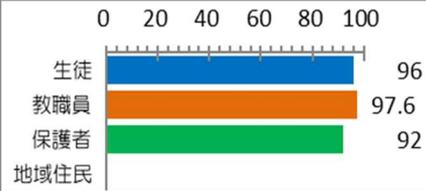
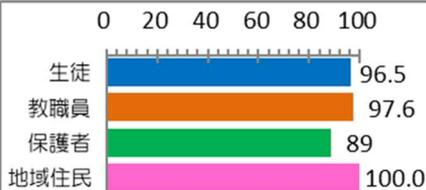
【次年度の方針】

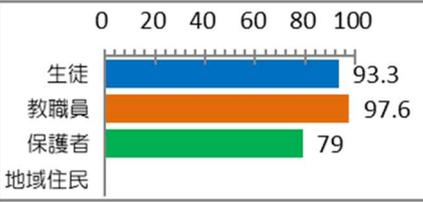
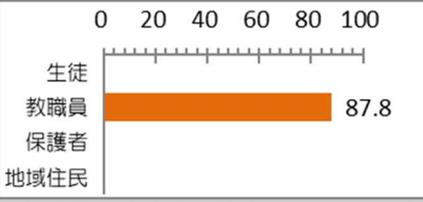
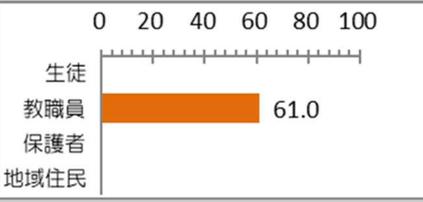
- ・学級活動や総合的な学習の時間、学校行事を通して、目標をもつことや自己理解、将来の夢の実現に向けて努力することの大切さを考えさせる。
- ・「Willナビ」等を活用し、生き方や夢の実現に向けて努力することの大切さを考える場面を設定する。
- ・各行事の事前指導や振り返りの充実を行い、見通しをもって努力することの大切さを考えさせる。

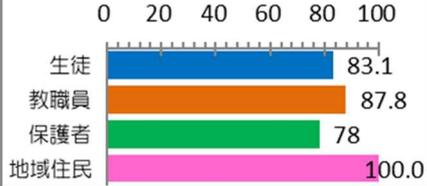
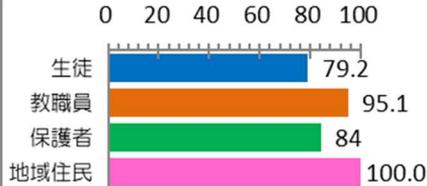
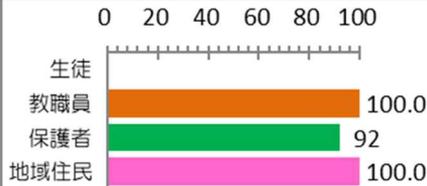
<p>1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A 4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 「うつのみや元気っ子プロジェクト」を活用するなど、食育や体育的活動の充実を図り、自分に合ったバランスのよい食生活をするとともに、体力増進に努めるなどして、生涯を通して健康な生活を送ろうとする態度を育成する。 ② 「交通安全教室」「薬物乱用防止教室」「がん教育講演会」「いのちの授業」「性教育出前講座」等を実施して、健康や安全への意識の向上を図る。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>生徒 88 教職員 70.7 保護者 85.1 地域住民 100.0</p> <p>・生徒、保護者、地域住民は指標を上回り、教職員は大幅に下回った。 【次年度の方針】 ・お弁当の日や給食指導を中心にした食育の強化及び体育の授業内での体力増強プログラムの実施、また外部講師による出前講座の活用で、生徒が健康・安全に過ごすことができる能力向上のための取り組みを推進する。 ・「うつのみや元気っ子プロジェクト」に則り、健康、体力、食育、安全の4つの柱から総合的に生涯を通じて健康で安全な生活ができる能力の育成に努める。</p>
<p>1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A 5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 教職員の肯定的回答 ともに 80%以上</p>	<p>① 進路学習やキャリア教育の充実を図りながら、自分の良さや個性を理解し、将来の夢をもたせ、夢の実現に向かってあきらめずに努力する態度を育成する。 ② キャリア教育の一環として、地域や卒業生等の講演会を行い、生徒の意識向上を図る。 ③ 地域性を利用した高等学校との交流を図る。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>生徒 90.3 教職員 92.7 保護者 地域住民</p> <p>・生徒、教職員は肯定的に捉えており、指標を大幅に上回った。 【次年度の方針】 ・「WILLナビ」等を活用し、生き方について考えながら、自分の良さや個性を理解し将来の夢を持たせるよう考える場面を設定する。</p>
<p>2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A 6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 英語科の授業において、英語で伝え合うことの楽しさが味わえるような言語活動を多く取り入れる。 ② A L T の学校行事等への参加を通して、生きた英語に触れる機会を充実させる。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>生徒 78.4 教職員 100.0 保護者 地域住民</p> <p>・全教職員は肯定的に捉えているが、生徒は 78.4%と指標を若干下回った。 【次年度の方針】 ・英語科の授業において、英語で伝え合うことの楽しさが味わえるような言語活動やA L T と直接やりとりをするような場面を多く設定する。 ・休み時間や学校行事におけるA L T との交流を通して、生きた英語に触れる機会を一層充実させる。</p>

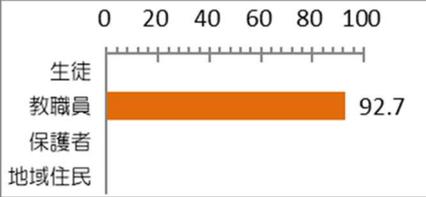
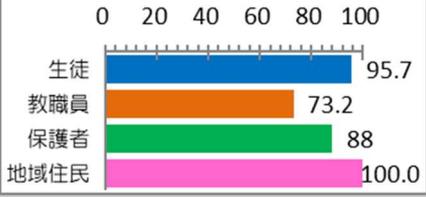
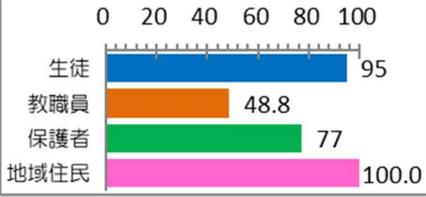
	<p>A7 生徒は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 生徒が地域でのボランティア活動に積極的に参加し、地域の人々との交流を図りながら、地域に関心を持ち、地域の良さを知ることができるように充実を図る。</p> <p>② 「総合的な学習の時間」における地域を知る活動（宇都宮学）の充実を図る。</p> <p>③ 給食の献立に「地産地消」の食材を用いるようにし、栄養教諭による献立の説明で宇都宮の農産物について理解・関心を深めさせる。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>生徒 84.4 教職員 73.2 保護者 67 地域住民</p> <p>・教職員、保護者は指標を下回ったが、生徒は 84.4%と上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・地域の人々とのボランティア活動（清掃活動等）を実施する。</p> <p>・地域を知る活動として宇都宮学を位置づけ、教科書をもとに、ICTも活用しながら、各学年、系統性をもって進める。また、各教科との連携を図る。</p> <p>・献立に旬の地域食材を生かしたメニューを取り入れる。また、給食時の放送を使って献立の説明を行うことで、地域の農産物を生徒に周知する。</p>
<p>2- (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進</p>	<p>A8 生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 教職員の肯定的回答 ともに 80%以上</p>	<p>① 各教科等において、効果的なICT機器（個人用パソコン）の利用を促進し、学習効果を高める。</p> <p>② 図書館司書の授業参画を図ったり、生徒会専門委員会の活動を工夫したりするなど、図書館の利用促進を図る。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>生徒 72.9 教職員 80.5 保護者 63 地域住民</p> <p>・教職員は 80.5%と指標を若干上回ったが、生徒、保護者は大幅に下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・GIGAスクール構想により、ICT機器の活用を継続する。</p> <p>・1人1台端末の利用をさらに活発にできるように啓発をしていく。</p> <p>・図書館司書の積極的な授業への参画を図る。</p>
<p>2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進</p>	<p>A9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 教職員の肯定的回答 ともに 80%以上</p>	<p>① 生徒会活動や合的な学習の時間等において、「SDGs」についての理解を深める学習を位置づける。</p> <p>② 生徒会専門委員会の活動を工夫し、環境問題に関心をもたせるために、節電・節水や3R活動を実践させるなど、身近なところからできることを意識させる。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>生徒 72 教職員 43.9 保護者 地域住民</p> <p>・生徒も教職員も指標を下回り、特に教職員は 43.9%と大幅に低い。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・総合的な学習の時間に SDGs の学習を位置づけるとともに、環境・防災を扱う授業を学級活動で取り入れる。</p> <p>・SDGs への取り組みに対し、生徒会活動を通じて、啓発や推進の活動を行い、教職員の SDGs に対する興味と、生徒の SDGs に関する知識を育む。</p>

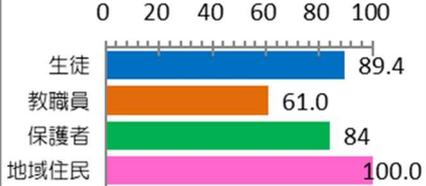
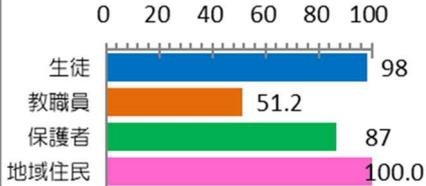
<p>3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 特別な支援を必要とする生徒について、必要に応じて指導カルテを作成したり、ケース会議を実施したりして、適切な支援ができるようにする。</p> <p>② 生徒指導部や教育相談部会で、生徒の状況についての情報共有や意見交換を活性化させ、組織的・段階的な対応を検討する。</p> <p>③ ユニバーサルデザインについての研修を深め、授業の中に取り入れることにより、合理的配慮への意識の向上を図る。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>生徒 教職員 97.6 保護者 地域住民</p> <p>・教職員の 97.6%は肯定的に捉えており、指標を大幅に上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・特別支援教育コーディネーターを中心として、個別の指導カルテの活用やケース会議の開催、部会等で生徒の状況について共通理解を図ることができた。また、必要に応じて他機関と連携しながら積極的支援を行う。</p> <p>・情報の共有を図り、必要に応じて他機関等との連携を図りながら、段階的・組織的な対応を行う。</p> <p>・生徒指導カルテやWEBQUの結果を、学年ケース会議などで活用する。</p>
<p>3- (2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 保護者の肯定的回答 ともに 80%以上</p>	<p>① 生徒が相談しやすい環境を整備するとともに、教職員は生徒理解を深め、信頼関係の構築に努力することで、いじめの早期発見に努める。</p> <p>② 生徒主体の「いじめ根絶集会」を実施するとともに、教職員は「いじめはどの生徒にも起こりうる」との認識の下、いじめ防止対策についての取組をより充実させ、いじめの起こらない環境づくりに努める。</p> <p>③ 教職員が自らの人権感覚を磨くための研鑽に努め、いじめ防止に対する意識といじめに関する対応力を向上させるために校内研修を充実させる。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>生徒 94.8 教職員 97.6 保護者 76 地域住民 100.0</p> <p>・生徒、教職員、地域住民は指標を大幅に上回り肯定的であるが、保護者は指標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・いじめ根絶集会を実施し、未然防止のための取組を行う。</p> <p>・今年度の取組を継続し、生徒との信頼関係構築に尽力する。</p> <p>・いじめの起こらない環境づくりに努め、「いじめ根絶集会」を効果的に学級への問題提示の機会とする。</p>

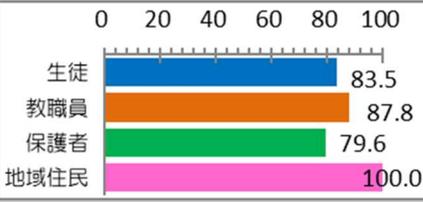
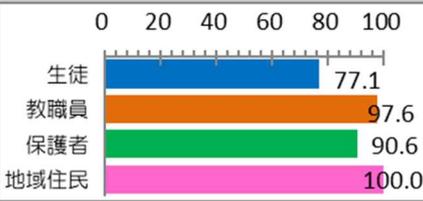
	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①スタンダードダイアリーや日々の様子、出欠状況等の情報を活用し、早期からの教育相談を行い、信頼関係に基づく、生徒一人一人に寄り添った支援を行う。</p> <p>②保護者との定期的な電話連絡や必要に応じた家庭訪問を行い、地域社会の関連機関との連携も視野に入れ、生徒を取り巻く環境全体での支援体制を構築する。</p> <p>③風通しの良い職場環境の維持に努め、気になる生徒等の情報を早期発見、早期共有、早期対応を可能にし、校内支援体制を活用して、組織全体で不登校の未然防止に努める。</p>	<p>【達成状況】</p>  <table border="1"> <tr><td>生徒</td><td>96</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>97.6</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>92</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td></td></tr> </table> <p>・生徒、教職員、保護者ともに指標を上回っており、特に教職員の肯定率は高い。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・QU や出欠状況、ダイアリー、定期教育相談による多角的な把握と支援を継続しつつ、生徒の小さな変容や努力を積極的に価値付けることで、自己肯定感を高める支援を深化させる。</p> <p>・教育相談部会を軸として教員間の情報共有のスピードと質を向上させ、SC や専門機関と連携した組織的なチーム支援体制を強化する。</p> <p>・保護者との日常的な連絡体制を維持しつつ、教育相談だよりや不登校支援に関する情報の提供を行い、保護者が孤立せず早期に相談できる環境を整備する。</p>	生徒	96	教職員	97.6	保護者	92	地域住民	
生徒	96										
教職員	97.6										
保護者	92										
地域住民											
<p>3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p> <p>3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 85%以上 保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 学校行事等を通して、生徒が目的意識をもって協力しながら主体的に活動して達成感や自己肯定感を得られるような場を設定し、活動を支援する。</p> <p>② 生徒会活動を通して、生徒の自主的な活動を推進するとともに、委員会活動の活性化を図る。</p> <p>③ 学級経営や教育相談を充実させ、「居がい」のある明るい学校づくりに努めるとともに、教職員間の柔軟な意見交換を活性化させる。</p>	<p>【達成状況】</p>  <table border="1"> <tr><td>生徒</td><td>96.5</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>97.6</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>89</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>100.0</td></tr> </table> <p>・生徒、教職員、地域住民の肯定的回答率は高いが、保護者は指標を若干下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・学校行事、生徒会活動は、生徒の意見を反映させる仕組みを整え、誰もが役割を持って参画し、達成感を共有できる場を設定する。</p> <p>・生徒会朝会の活動を充実させることで、生徒の活躍の場を確保する。</p> <p>・各学年共通理解のもと、学級経営の充実を図り、教育相談体制の強化も図る。</p> <p>・教職員間で柔軟な意見交換ができる環境作りに努め、活性化を図る。</p>	生徒	96.5	教職員	97.6	保護者	89	地域住民	100.0
生徒	96.5										
教職員	97.6										
保護者	89										
地域住民	100.0										

<p>4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 個に応じたきめ細かな指導を行う。数学科及び英語科においては、習熟度別学習やT・Tなど、指導形態を工夫し、学力を向上させる。 ② 日々の授業で、学びのサイクル「つかむ」「学び合う」「まとめる」「振り返る」の効果的な活用を心がけ、生徒が主体的に深く考え、取り組めるような授業の展開を実践する。 ③ 新学習指導要領の実施に伴い、授業改善や評価計画の充実を図るとともに、「一人一授業公開研修」実施により、教員の授業力向上に努める。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>生徒 93.3 教職員 97.6 保護者 79 地域住民</p> <p>・生徒、教職員ともに肯定的回答率が高いが、保護者は79%と若干指標を下回った。 【次年度の方針】 ・英語科・数学科では、習熟度別学習やT・Tなどの指導形態を工夫し、「ユニバーサルデザイン」の視点を活かした授業づくりを行うなど、個に応じたきめ細かな指導を行う。 ・生徒の主体的で深い学びを実現するため、指導法の工夫やICTの利活用に取り組む。特に各生徒が持つタブレットを積極的に活用し、分かりやすい授業の展開を工夫する。 ・「一人一授業公開研修」を実施し、教員の授業力の向上に努める。</p>
<p>4- (2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① SC, MS, かがやきルーム指導員、学校図書館司書等との連携を強化しながら、チームとして生徒の状況の把握と支援に努める。 ② 配慮を要する生徒について、多様な立場や観点からの生徒の見取りや専門的な知見を、指導に生かす。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>生徒 教職員 87.8 保護者 地域住民</p> <p>・教職員の肯定的回答率は87.8%であり、若干目標指標を下回った。 【次年度の方針】 ・支援を要する生徒の対応において、SCMや特別支援教育コーディネーターが支援の窓口となり、学年や関係教職員、SC, MSと連携を図りながら、教育相談部会として支援の場や支援者を調整するなど、早期対応を図り、チームとして支援を行う。 ・配慮を要する生徒の支援の状況や方向性などを、全職員で共有することで、校内支援体制の強化に努める。</p>
<p>4- (3) 学校における 働き方改革の 推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 70%以上</p>	<p>① 教職員一人一人が、ミライムを活用して出退勤時刻の記録を確実にし意識を高めるようにする。 ③ 業務の見直しや効率化を図るとともに、会議や研修等の効率化と内容の精選を図る。 ④ 定期的に「リフレッシュデー」を設定したり、部活動の休養日を設けたりして、教職員の負担が軽減できるよう配慮する。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>生徒 教職員 61.0 保護者 地域住民</p> <p>・教職員の肯定的回答率は61%であり、目標指標を下回った。 【次年度の方針】 ・職員へ定期的に周知し、出退勤記録等個人の意識の向上を図る。 ・会議や研修等の実施については効率化を図る。 ・業務の効率化を図るよう努め、定期的によりリフレッシュデーをより工夫して設定する。</p>

<p>5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 教職員が、小中一貫教育の重要性についてさらに理解を深め、業務の精選を考慮しながらも、生徒や職員の交流や連携による実践(あいさつ運動)を行う。 ② 小中一貫各部会において、地域学校園内児童生徒の課題を的確に把握・分析し、必要に応じて連携を図りながら、実効性のある取組を推進する。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>生徒 83.1 教職員 87.8 保護者 78 地域住民 100.0</p> <p>B</p> <p>・生徒、教職員、地域住民は目標指数を上回ったが、保護者は若干下回った。 【次年度の方針】 ・小中乗り入れ授業やあいさつ運動においては、計画通り実施する。 ・各部会において、生徒の実態を把握・分析することで、より効果のある教育活動を実践する。</p>
<p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進</p> <p>5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を努めている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 75%以上 保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 学校HPや各種だよりを活用して積極的に情報発信を行い、学校の教育活動に対する理解と協力が得られるようにする。 ② 家庭訪問、保護者会、三者懇談、オープンスクールなど様々な機会を捉えて家庭や地域との連携を図り、よりよい生徒の育成に努める。 ③ 陽西中学校地域協議会との連携を図り、地域の祭りや清掃などの奉仕活動に積極的に取り組む。また、「未来会議」を実施するなど、意見交換の機会を創生する。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>生徒 79.2 教職員 95.1 保護者 84 地域住民 100.0</p> <p>B</p> <p>・生徒、教職員、保護者、地域住民全て目標指標を上回った。特に教職員、地域住民の肯定的回答率は高い。 【次年度の方針】 ・学校HPで学校行事や生徒の様子を発信する。また、学校からの一斉メールを活用して各種便り発信し、保護者の理解と協力を得る。 ・地域協議会や地域まちづくり協議会と連携したボランティア活動に参加して、地域に貢献できる生徒の活動を推進していく。</p>
<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 安全点検を、毎月確実に行うとともに、改善箇所の修繕を迅速に実施する。また、避難訓練の実施方法を見直し、より実践的な態度の育成を図る。 ② 台風や地震、大雨などの自然災害発生時には、校舎内外の巡視を行い、危険回避に努めるとともに、危険箇所の発見と早期対応ができるようにする。 ③ 事務部と連携して、学校予算の適切な運用を図り、環境整備に努める。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>生徒 100.0 教職員 100.0 保護者 92 地域住民 100.0</p> <p>B</p> <p>・生徒、教職員、保護者、地域住民全て目標指標を上回った。特に教職員、地域住民の肯定的回答率は高い。 【次年度の方針】 ・安全点検を毎月確実に実施し、破損箇所等の把握や修繕を行う。業者依頼する事案については、学校予算等を有効に活用して迅速に対応する。 ・予告なし避難訓練の実施など、より実践的な訓練の実施し、災害時に適切に判断し、行動がとれる生徒を育成する。 ・これまで同様、事務部との連携を図り、環境整備を行っていく。 ・特別活動等を活用して安全指導を強化し、生徒の安全への意識向上を図る。</p>

<p>6-(2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 1人1台端末に関する研修に積極的に参加し、教科部会等校内研修で共通理解を図るなど、授業で効果的に活用できるように努める。 ② 全生徒対象の「PCの日」を利用して、計画的なスキルアップの機会を設ける。</p>	<p>【達成状況】</p>  <table border="1"> <tr><td>生徒</td><td></td></tr> <tr><td>教職員</td><td>92.7</td></tr> <tr><td>保護者 地域住民</td><td></td></tr> </table> <p>B ・教職員の肯定的回答率は 92.7%であり、目標指数を大幅に上回った。 【次年度の方針】 ・教員間で、ICT機器の有効な利用方法を周知し実践する機会をつくる。 ・授業の中で生徒がICT機器を主体的に活用し学習する場を、より計画的に設定する。</p>	生徒		教職員	92.7	保護者 地域住民			
生徒											
教職員	92.7										
保護者 地域住民											
<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 教職員の肯定的回答 ともに90%以上</p>	<p>① 時と場に応じた心のこもったあいさつの仕方についての指導を充実させるとともに、本校のよき伝統として継承していく。 ② 日常生活の中でのあいさつ指導に加え、生徒会各委員会や部活動等による、生徒主体のあいさつ励行を推進する。</p>	<p>【達成状況】</p>  <table border="1"> <tr><td>生徒</td><td>95.7</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>73.2</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>88</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>100.0</td></tr> </table> <p>B ・生徒、地域住民の肯定的回答率は高いが、教職員は 73.2%と指標を大幅に下回った。 【次年度の方針】 ・生徒は、時と場に応じた明るくさわやかなあいさつができる。本校の伝統的なよさとして継承する雰囲気が醸成されている。 ・地域学校園小中合同あいさつ運動を行う等、あいさつの活性化を図る。 ・日常生活における継続的なあいさつ指導に加え、生徒会活動等を通して、生徒の主体性を高めるよう、感染防止対策を講じながら、計画的に実施する。</p>	生徒	95.7	教職員	73.2	保護者	88	地域住民	100.0
生徒	95.7										
教職員	73.2										
保護者	88										
地域住民	100.0										
	<p>B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① チャイム着席、授業の開始・終了時のあいさつができるようにするとともに、服装や姿勢を整えて授業に臨めるよう指導する。 ② 教職員の共通理解、共通指導の充実を図る。 ③ 学業指導の充実とともに、きまりの遵守やマナー向上の意識を高めさせる取組を、生徒の主体的な関わりを増やすよう工夫する。</p>	<p>【達成状況】</p>  <table border="1"> <tr><td>生徒</td><td>95</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>48.8</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>77</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>100.0</td></tr> </table> <p>B ・生徒、地域住民の肯定的回答率は高いが、教職員は 48.8%と指標を大幅に下回った。 【次年度の方針】 ・教師の率先垂範を基本とするとともに、教職員の共通理解・共通指導の徹底を図り、ルール作成等に生徒の主体的な関わりを増やす取組を工夫することで、引き続き規範意識向上の醸成を図る。</p>	生徒	95	教職員	48.8	保護者	77	地域住民	100.0
生徒	95										
教職員	48.8										
保護者	77										
地域住民	100.0										

<p>B3 生徒は、時間を守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 教職員の肯定的回答 ともに80%以上</p>	<p>① 登校時間や授業開始時刻など、「3分前着席」を意識して生活できるように指導する。</p> <p>② 生活委員会や学級委員長を中心に生徒自身の自治の力がつくよう指導の工夫を図る。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>生徒 89.4 教職員 61.0 保護者 84 地域住民 100.0</p> <p>B</p> <p>・生徒、地域住民の肯定的回答率は高いが、教職員は48.8%と指標を大幅に下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・チャイム3分前着席の励行等、リーダーを中心に主体的に継続した取組を行う。</p>
<p>B4 生徒は、交通ルールを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 教職員による登下校時の交通指導や見守りをより充実させる。また、交通ルールの遵守や交通マナーの向上について、生徒の主体的な関わりを意図的に設定するなど、学年や学級で繰り返し指導する。</p> <p>② 生徒の意識を高めるために、交通安全教室に外部指導者を招聘するなど、内容を工夫する。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>生徒 98 教職員 51.2 保護者 87 地域住民 100.0</p> <p>B</p> <p>・生徒、地域住民の肯定的回答率は高いが、教職員は51.2%と指標を大幅に下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・登下校指導の徹底や通学路調査などを実施し、生徒の安全に関する意識を高める取組を行う。</p> <p>・生徒の意識をより高めるため、安全指導内容の工夫改善や、生徒主体の取組の実施を検討する。</p> <p>・立哨指導を継続して行い、規範意識の向上を図る。また、交通ルール遵守やマナー向上にむけた意識の醸成を図る。</p>
<p>B5 生徒は、体育祭、文化祭など学校行事に積極的に参加し、協力して活動している</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 生徒・保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 自主的・実践的な態度を育むため、体育祭や文化祭等の学校行事に、生徒の意見や創意工夫を取り入れるようにする。</p> <p>② 地域のボランティア活動を推進するための働きかけを積極的に行うとともに、活動の成果を掲示するなどして、生徒の自己有用感を高める。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>生徒 90.5 教職員 95.1 保護者 96 地域住民 100.0</p> <p>B</p> <p>・生徒、教職員、保護者、地域住民全ての肯定的回答率が高かった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・立案段階から、生徒の「やりたい」を形にするプロセスを重視することで、挑戦する主体性と創造性を育成する。</p> <p>・学校行事等では、より充実感の味わえる行事の設定について、教職員の共通理解のもとで再検討する。</p>

<p>B6 学校は、授業以外に様々な学習の場を工夫して設定し、学力向上に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 基礎学力の定着、学力の向上を目指し、放課後のレベルアップ学習、夏休み学習サポートを実施する。実施方法に改善を加え、より効果的な運営に努める。</p> <p>② 地域協議会と連携した、学力向上のためのサポート事業を企画、運営する。</p>	<p>B</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>生徒 83.5 教職員 87.8 保護者 79.6 地域住民 100.0</p> <p>・教職員、地域住民の肯定的回答率は高いが、生徒、保護者は指標を下回り、特に保護者は79.6%であった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・レベルアップ学習、夏休み学習サポート、テスト前学習サポートを継続し内容をより充実させることで、更なる基礎学力の定着、学力の向上を目指す。</p> <p>・地域協議会と連携し、運営方法や実施方法等について再検討する。</p>
<p>B7 学校は、教室や廊下の掲示物を工夫したり、花壇を整備したりして、環境美化に努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 生徒の心を育てるための、「フラワープロジェクト」を推進する。</p> <p>② 美化委員会及び、各学年委員会を中心とした役割分担を明確にして、主体的に活動に参加できるようにする。</p> <p>③ 各学年フロアの掲示物を工夫しながら、計画的に作成する。</p>	<p>B</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>生徒 77.1 教職員 97.6 保護者 90.6 地域住民 100.0</p> <p>・教職員、保護者、地域住民の肯定的回答率は指標を上回っているが、生徒は77.1%と下回った</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・校内の掲示物を定期的に更新し、各学年にフラワープロジェクトなどの校内環境美化に継続して力を入れる。</p> <p>・心が温かくなるような掲示物や花壇の整備を生徒主体で実施し、豊かな心を育む。</p> <p>・美化委員会や学年委員会を中心として、学校環境をよくするために生徒が主体的に日常の清掃活動を行うようにする。</p> <p>・校内の環境整備を強化し、各学年フロアの掲示物を計画的に作成する。</p>

【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

【昨年度比の結果】

昨年度比では、多くの項目で向上が見られた。教職員は27項目中22項目、保護者は20項目中18項目、生徒は22項目中10項目、地域住民は14項目中5項目が向上した。

<全てのカテゴリーで向上した項目>

- ・A2：生徒は、思いやりの心をもっている。
教職員 63.4% (14.5%↑) 保護者 90.9% (8.2%↑) 地域住民 100% (12.5%) 生徒 94.2 (2.0%)
- ・A3：生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。
教職員 78% (22.5%↑) 保護者 74.7% (1.2%↑) 生徒 85.5% (1.6%↑)
- ・A6：生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。
教職員 100% (17.8%↑) 生徒 78.4% (2.7%↑)
- ・A8：生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。
教職員 80.5% (7.2%↑) 生徒 63.3 (2.1%↑)
- ・A12：教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。
教職員 97.6% (2.0%↑) 保護者 91.9% (12.6%↑) 生徒 96.3% (3.2%↑)

- ・ A14 : 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。

教職員 97.6% (2%↑) 保護者 79.1% (6.4%↑) 93.3% (2%↑)

<昨年度比で大幅に向上した項目>

教職員

- ・ A5 : 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。教職員 92.7% (39.3%↑)

- ・ A1 : 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。

教職員 75.6% (28.9%↑)

- ・ A3 : 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。

教職員 78% (22.5%↑)

保護者

- ・ A11 : 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。保護者 76.3% (12.5%)

- ・ A12 : 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。保護者 91.9% (12.6%↑)

<昨年度比で大幅に減少した項目>

- ・ A16 : 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。教職員 61.0% (10.1%↓)

- ・ A9 : 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。生徒 72.3% (-9.3%)

【教職員と生徒比で大幅に差がある項目】

- ・ A2 : 生徒は、思いやりの心をもっている。

教職員 63.4% 生徒 94.2% (30.8%差)

- ・ A9 : 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。教職員 43.9% 生徒 72.3% (28.4%差)

- ・ B2 : 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。教職員 48.8% 生徒 95.0% (46.2%差)

7 学校関係者評価

本年度は、教職員、保護者をはじめ、各層で昨年度を上回る回答が得られ、特に「生徒の心の成長」や「教職員の指導体制」において、学校・家庭・地域の評価が一致し向上することができた。

・ 全層で向上が見られた A2「生徒は、思いやりの心をもっている。」については、昨年度に引き続き、「道徳応援チーム派遣事業」による講師や指導主事を招聘した授業研究会、ローテーション道徳による授業力向上、土曜授業など授業公開や学校 HP、学校だよりを活用した外部への発信、生徒の実践力の向上などが要因と考える。また、授業実践については、教職員が分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図ることで、生徒が目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組むことができた。さらに、デジタル機器や図書等を学習に有効に活用していることも要因と考える。

・ A6「生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。」については、今年度さらに、ALTによる昼休みの英語の読み聞かせを通年で実施したことや、英会話の授業の工夫が成果に繋がったと考える。

・ 昨年度比で大幅に向上した項目については、教職員が A5「生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。」 A1「生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。」 A3「生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」を高く評価しており、定期テストだけでなく、小テストや補助簿等を工夫しながら生徒のつまづきや成長を細かく把握し、授業改善に努めた成果を実感できたことが要因と考える。

・ 保護者が高く評価した、A11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」、A12「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。」では、昨年度比約 12%向上しており、担任や部活動など教職員が保護者と連絡を密にしながら子どもと寄り添い、不登校生徒や別室登校生徒への課題の提示を明確にしたことで、直接的な指導や関わりが増え、生徒や保護者に安心感を与えられた成果と考える。

・ 逆に、昨年度比で評価が減少した A16「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」については、教職員が生徒や保護者に寄り添い、時間をかけることで業務の効率化を図れず評価を下げることとなった。また、A9「生徒は、『持続可能な社会』について、関心をもっている。」は、実際に取り組んではいるが意識づけが低いため、その方法については学級活動等を通じて改善を図る。

・ 教職員と生徒比で大幅に差がある項目について、A2「生徒は、思いやりの心をもっている。」では 30.8%差、A9「生徒は、『持続可能な社会』について、関心をもっている。」 28.4%差、B2「生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 46.2%差あった。生徒が自信を持っている一方で、教職員側には「もっと伸ばせる、まだ改善の余地がある」という期待値の高さが伺える。今後は、目指すべき姿の具体像を共有していく必要がある。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

今年度は、多くの項目で高い評価を得ることができた。昨年度の課題を生かし具体的な改善策を見出しながら、組織的・計画的に取り組めた成果と考えられる。

次年度も、さらに学校目標である「活力のある、笑顔と潤いのある学校づくり」の実現に向け、「心の教育」の推進や、規律ある態度の育成、主体的に学習や行事に取り組む生徒の育成に向けて継続的に努めていく。

特に、不登校対策については、校内教育支援センターの設置により、支援員や担任、SCM と連携を図りながら、無理のない登校刺激と自分のペースでの学習支援が実現され、個に応じた対策が講じられていることから継続していく。

さらに、心の教育を推進することで、全員が安心して生活できる環境を整えるとともに、思いやりの心と態度を身に着けていけるよう、道徳の授業のさらなる研究や実践、挨拶や感謝の言葉の推進など日常化を図る。

また、生徒が安全で安心した学習活動や生活が送れるよう、授業態度や校則・交通ルールなど決まりを遵守させる。その他、薬物乱用防止教室や SNS の正しい使い方、デート DV など専門的な外部講師を招き、講話を通じた指導の徹底を図る。

教職員の業務改善は大きな課題であることから、事務処理のデジタル化を進めるとともに、留守番電話の設定時間の変更など、実現可能な対策から取り組む。